

尾張志

愛知郡春日  
古城  
村名  
四至  
塚  
莊名  
郷名

第五門  
品目  
年月日  
製  
昭和  
年月日  
第一三  
課

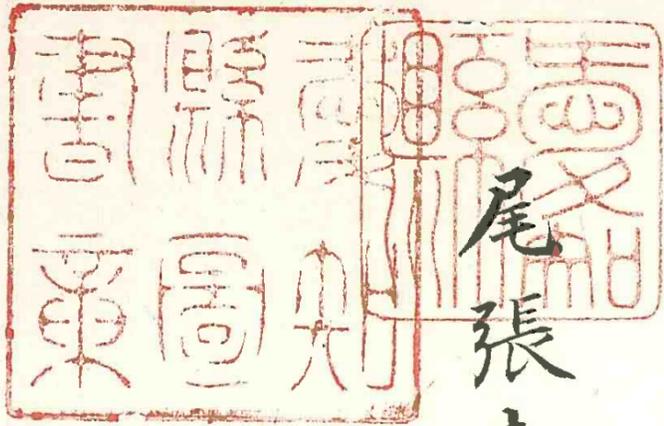
自二十七

尾張志

294  
7  
1-27/28



夔州縣  
史編纂  
係之印



尾張志卷之二十七

愛智郡  
古城

川名南城

明治十九年  
八月  
點查章

A294



AG0.08

未  
27

深田增藏正 韶謹撰

植松庄左衛門茂岳 謹校

中尾八郎右衛門義稻 謹輯

岡田六兵衛 啓謹輯



川名村郷家の東南方より居る地を澁河郷の  
南方よりいはずの字と城屋敷とも也城壘皆陸  
田より古井二不あり口向より竹藪よりとも居れ  
りともほり検見せり東西三十五間南より二十間あり

同所北城

同村の南東方より居る地を澁河郷の北方に  
あり南西北三方より竹藪よりいはずの字と大藪  
より城屋敷よりほり城址小民戸四烟あり南より

三十六間三尺許<sup>ハカリ</sup>東西二十二間半許あり府志  
より川名城二在川名村土人曰一則佐久間彦  
五郎一則佐久間半左衛門各居之俱不知何時人  
より伊<sup>イ</sup>とも今には伊<sup>イ</sup>とも既<sup>イ</sup>失<sup>シ</sup>て郷俗より  
姓名と減<sup>ヒ</sup>ともありこれ南より二城の目いづきを  
るもなりすありともきつづきよりあり

末森城

末森村の北の北方より居る地を澁河郷の北方より居る

に東西百間、南七八十間、北廿四間、南廿六間、  
東西百間、南八十間、西九分、東西四十間、  
南北廿四間、洋東方本丸、分東西廿四間、  
南廿六間、洋あり、是は北方より、白  
山社あり、けは社地と、漆四  
面の堀あり、とて省て、臺址の  
とを檢はる、總域  
とて、一回書よ、とて、やく  
ま、古井と一所、存  
り、城の一回書よ、天文年中、  
織田備後守、信秀始築之、  
其子勘十郎、信行、繼居、  
此城、信行

為其兄信長見殺後、廢矣といふ、  
とて、  
は、この白山社、勘十郎、  
信勝の左、是天文廿二年、  
より、勘十郎の神、うら  
り、うらび、うら、  
り、  
わき、  
あり、  
たり、  
ま、  
存、  
り、  
た、  
に、  
裏、  
書、  
わ、  
り、  
と、  
て、  
持、  
来、  
た、  
と、  
を、  
え、  
れ、  
ば、  
臺、  
坐、  
一、  
枚、  
の、  
板、  
と、  
て、  
中、  
央、  
小、  
真、  
木、  
拵、  
せ、  
り、  
穴、  
り、  
裏、  
書、

白山勸請神御座御光  
施主織田勘十郎信勝并  
本山大御前別當阿倒院  
権大僧都道雅○辛丑歲  
當社別當真如坊頼舜  
佛工熱田信放法橋是作

天文世二二五月三日御鎮座

道雅筆者

とり七十四字とくのみやく八つと書くとり  
ぞし河心體ハ往年盜賊のわよ亡ぬとあり

### 植田城

植田村民戸の中とて、波河瀬の西方に居  
る地あり、東又少の壇の址と云ふも、沙なり  
城墟、東に居る、陸田とて、西方小民戸  
二畑あり、横地を所は、馬射秀綱始て、遠江國  
より此地より移り、より十世源頼朝守秀

重子子小お秀房之身吉茂秀經之身新  
之即秀以之て此城をたつとき秀綱の文明  
七年乙未九月十日より方よりて遠来院光譽秀綱  
居士より秀重の文福二年癸巳九月十日亡て  
姉川院名譽道念居士秀房の天正十二年甲  
申六月廿三日南無沙弥那蟹江に戦死  
て蟹房院劔翁仁榮居士秀種秀行二人の天  
正十二年四月八日北智部郡長之より戦死

長種院より岩道節居士長行院鉄山宗心居士  
より日村全久寺の古位牌より

### 一色城

一多村の中島より地より四址まで陸田  
より四面より壇の流よりけ比と城山より  
より城より保田源六より里俗より府志  
より郡六より河より日村神藏寺寺記  
に柴田源六源兵衛を世の日此寺を創建

雲岫麟棟和尚と清待とて同祖と云勝重ハ  
文龜三年癸亥七月二日に卒とて靈源院殿天  
信了運大居士と云ふと云ふ義稻按云織田  
家の長尾柴田村六條家の此隣村上社村の人  
とて天正十一年癸未四月越前北庄城中より  
卒ぬ時年六十餘と云ふ後家と云ふ勝重が  
裔と云ふ祖父曾祖父と云ふや云ふ此村に  
柴田名字の家ありみな同族と云ふ

### 上社城

上社村西島と云民戸の南方赤山といふ地  
あり北西南三方に塙あり一と云田塙と云  
陸田あり城とい賀茂助と云りと里俗の  
傳といふと云田村觀音寺の古きと云

文明六年

天庭誠井禪定門

前山之城主  
俗名賀藤

勘三郎

藤森了玄院  
且家也

辛正月四日

と見え又藤森了玄院の古位牌小

表 歸真天庭誠井禪門 靈位

裏 文明六年正月初四日

とあり又明暦二年申十月九日よ書、此村の  
書上帳に長三十間横八間西の方よ城の形中  
三尺やぶ七十二間と記し元年此城を加藤  
劫之助殿くしん此劫之助殿以来は存せん  
右に記すは白畑二畝二十四歩是ハ備前殿

少除地之耐高之由一入しん沙分山之由は  
少除地之耐高之由一入しん沙分山之由は

### 平針城

平針村民戸の少々方字と元<sup>モト</sup>以<sup>カフ</sup>りて地  
あり少々方字今も程七段形跡ありて杉樹あり  
生えり少々方字の少々方字水田あり東西三十  
四間南北三十一間半あり府志よ土人曰小野  
田劫六居之と記し今も以民其姓名を

如所り康暦年中より同郡傍尔ホウシ本村モトより小野田  
左近将監長安よりよせりき勅六よりく  
こ一族り又よ商よりよめり長安の法  
名阿願よりして法福寺再建の施より傍尔  
本村春日社の権柄奉修理御社一宇甲辰  
慶長九年閏八月初七日大願主小野田長右衛門  
同太郎右衛門よりよめり今も同村より小野田  
名字の郷民ありしと云ふ小勅六も

同黨の家族よりし

### 赤池城

赤池村民戸の北方三町よりふありて城域  
みよ陸田ダより東西二十七間南北二十八間あり  
城主丹羽常刀秀信よりし口氏より秀信  
を天正元年より同郡龍淵寺を創建より寛  
文元年より丹羽十所長為居城よりし府志に  
土人丹羽七右衛門居之今為水田然壘趾僅存矣

呼其地曰元郷と云々其の為水田と云々  
元郷と云々此の今の村の四址と云々  
此の西に十町七町ありと云々  
或ハ親子歴代の内いまど動地と

梅森北城

梅森村の内北の方より城址ハ  
村の古記録ハ東西廿四間南ハ  
府志小為民家及陸田と云々  
城主ハ松平三茂

梅森北城址の北方より眺  
景寺と云々寺ありハ天台宗と云々  
坊と云々と天文二年小治と云々  
戊戌三月浄土宗と云々と付の本願と云々  
此の城ハ松平三茂高照の末子と云々  
此の城ハ子尊照より血脉絶と相承と云々  
今ハ此の道西ハ弘治二年丙辰四月  
此の寺の池と云々

同所東城

日村の月東方より居る城よりけ村の四境  
に東西十八間南北二十間よりけ今東西  
十八間南北二十四間よりけ城域なる  
民居よりけ城よりけ杉平ゆきよりけ府  
志よりけ

浅田城

浅田村上の口よりけ地よりけ西の方よりけ

の松沙りて界田よりけ民居よりけ城より  
丹羽ゆきよりけ有志よりけ

折戸城

折戸村西流よりけ地よりけ比むよりけ  
吹上よりけ丹羽ゆきの地よりけ今  
ゆき名よりけ城<sup>シロナ</sup>ゆき氏并八幡は  
より一町より西よりけ民居の山よりけ山城に  
て西菊の方よりけ眼下よりけ系よりけ

吹上り山南の形なり山南の形なり  
東西二方と堀あり形勢のあり東西堀と  
深く二十五間南北十八間あり南堀は  
丹波お糸の氏延文明三年四月始て築てけ  
ちふはし明應六年丁巳八月六日みまうりて  
長相寺殿龍澤道盛大禪定門と云其子新田氏  
員文亀三年小田郡本口村よけ城と稱し  
かれば二代三十三年在城の存廢はさうり

### 本郷城

本口村氏居のわら方字と云を云と云地に  
あり四面よ土居あり七居の廣サ九人あり  
界内は水田及陸田とあり七居と除て東西廿  
間五尺あり南北廿一間四尺斗あり城墟の南  
東ともぐくを居あり今この村居の四址な  
れはなり又けちの北方と城ありとあり南堀は  
文亀三年よ丹波新田氏貞柄が城と稱して

信初より其子平左馬氏興之若校守  
氏清の在也天文七年延三代二十六年  
了りしより氏貞の永正十五年戊寅十月十八日  
ふまゝりて悟室道參大禅定門といひ氏貞の  
天文五年丙申二月廿三日小卒して性菴道見  
大禅定門といふなり

岩崎城

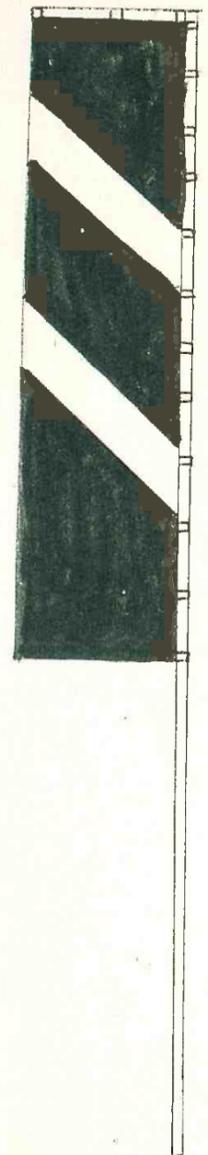
岩崎村中市部より北より西面より城あり

城の廣サ八間より府志より東西八十五間南  
北百間といふなり城と除て本丸今東西四  
十六間許南北四十二間許北方二九間小吉井二不  
あり西方小屋敷大石より北中より堀道なる  
深サよりかきこしり東南の方より一株の古木  
あり當城の丹羽若校の氏清天文七年めりたよ  
業く本に城よりうつりて城をよほりかきて其  
子右近大夫氏識其子右近大夫氏勝其子勘助氏

次より四代天正十二年まで四十七年ほど  
しより始りて同年二月氏次

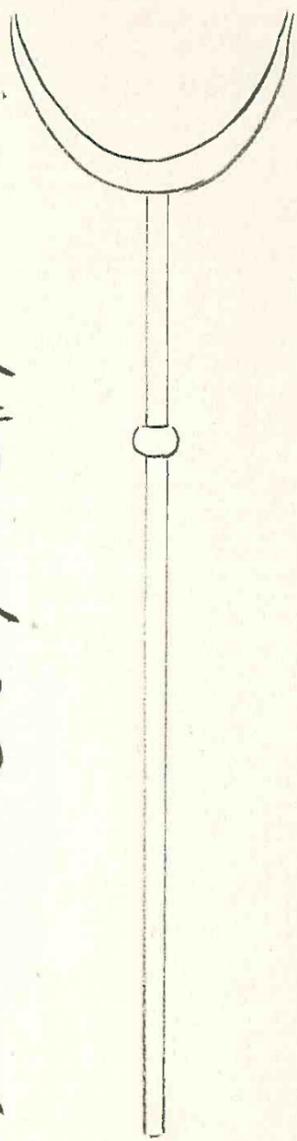
東照宮の供奉して小牧の陣營よりひく  
討より南郡傍尔お村の所より丹波次所より  
氏重及姉婿長之の所より加茂太所より忠景  
おに家士と授て南郡とさしし四月九日池田  
勝入表武親より大軍といきりてけ城と攻む  
氏重年十六弱冠よりして池田森が程勢

小射して義より勇と震いて士卒従類  
等まで悉並戦おと其士より後四十一人射夫  
三十八人歩卒六十人奴僕七十人工高の入城するの  
二十人惣計二百四十人より氏重より目の指おハ



図れゆく緋小白筋二ヶ下川遠へとさし緋系  
の邊より芦毛の馬より糸手塗と持て假拵よりつさ

出陣小我我兵か友を所ち為忠景ハ



別のころと天衝の大指ぬく白糸の澄きて  
月毛の馬より大身詮と捉て家より十人  
討九数ヶ不痛と願て遂に我我兵討ふ年  
四十二番日卯上刻より辰刻に城兵敗れて  
我々を以て翌十日惣兵散り細うて氏重と妙仙

寺よ忠景と長久の森じ氏重と鐵樹院  
殿傑山常英大居士より

### 長湫城

長久の村東急より地より四壘とて氏  
居よりして洋よりきくしんて大概東西  
二十九回より南の二十回より城とい  
永享年中左近を所家忠左馬守守享  
祿の以齊友平は馬射回氏部正より

よりやあゝいさきて此城廢て後加藤を可た歩  
け比よ恒了きいひく後人様よく考へきいめ  
てよ此村景行天皇社の祠官青山助太夫が  
小太郎右馬のまゝ一抽あり

愛知郡長久手村 加藤太郎右衛門

奉建立大妙神守護所

慶長<sup>甲</sup>辰小春吉日 祢宜屯ちほつ

とありて此城址の円よき岳の上よ本藩加藤

氏より近年建つ石標あり

表 加藤太郎右衛門忠景宅址

裏 文化六年己巳十月

加藤太郎右衛門景芳  
加藤左一郎景久  
加藤権左衛門品景

と彫つけり

岩作東城

岩作村東縁と云民戸の西の方よ居る地よ  
うの字と城之内とあり四面よ古居の形  
沙わり土居幅二間づわり土居と有て東西

四十四間南北三十二間あり地方を書小今井四郎  
兵衛所之南村東畠あり之段一段二畝歩也  
之あり是より郷人今も之名を知れり天正十  
二年四月九日岩崎籠城戦死の士今井四郎  
三郎と云ゆハ四郎之孫の子と云ふけむ

同所西城

日村西邊より民居の北方より堀がま  
まにあり土居も存らぬ旧墟サカ洋小と云ふ

けとて東西三十間南北十間ありあり地方  
覚書に又一ツハ日村横八畠之南村西畠  
あり之址一段廿歩也といふ是より城址なる  
水田あり之の字を城原と云ふ

本地城

本地村植田島より堀より民家八九戸  
ありて自堀ハ水田陸田ありあり東北二方小堀の  
北いさゝあり民居入り交りて四至洋より云

しんごけき... 東西三  
十五間むらり南山廿四間洋河り城之松系平  
内より府志...  
此城址は松系氏の者ゆりしが坂と修く云  
あるを福せり其い今文四席より一帯也  
村長い... 松系平岡が一族  
ふい...  
スエ

菱野城

菱野村の... 高古居竹藪... 内は民戸二畑あり東西二十七間南...  
河り... 府志は林次郎左衛門... 十四  
卷系譜の山田系圖小尾張國山田郡菱野村  
駿河守平義村所領以山田三郎恭親山田左近太夫重親三子補上  
菱野村地頭職以山田四郎親氏重親三子補下菱野村地  
頭職人物志小山田筑後守源重定愛智郡菱野村

人多くすむるべし此山田氏人の古城址小後述  
徳林氏の領ありしやあり

### 山口城

山口村本泉寺界内なるありけ此はむしり  
也のよりして山田二郎恭親が上叡也城址ありし  
寺はよしなり恭親弘安四年別發して瀨顯  
と号し上叡燈小本泉寺と創建して自閑  
祀するありきり也國なる國專修寺顯智のあり

ありて弘く門法と教授たりしと有志なる不  
海上河多物見嶺といふ處下に土人云是武  
田信玄置成之古壘也といひ又山口城在山口村  
土人曰武田信玄置成之地今按武田信玄取尾州地  
無所見信玄嘗与織田信長有隙進兵侵東濃拔數  
城恐是此時置斥候之地とありけ物見嶺より  
之代りとするに冬河原尾法三國の代境郷  
里洋明と眺めしなり斥候と云ふはさるる勝

地より城域を定むるに勢あり元来城  
址より後流をくさるに沈定むるに地名と  
あり自修も此山口より古城址あり其の  
本泉寺あり上古に上菱やありが後山口  
乃地を隸するを本泉寺所統る  
山田世譜山田三郎恭親が傳に事大將軍惟康親  
王為山田莊上菱野今屬愛智郡  
改名山口地頭然樂閑寂壯年  
而讓地頭職于子重元而閑居焉ありの上菱

也と後山口と改名をくさるに此世譜撰

者の附會の経を括して山口に既倭名抄に

山田郡山口郷とるに神名式小田郡山口村

社此山口と小口とま  
るは今の誤り本國帳に後三位山口天神あり

みより代を菱やありも今少くは前つて

より此郷名をくさるに年々の代ありとい

てまはるるにや

小藤枝城

友枝村氏居のやま屋々々地々あり東西北三方  
土居の形沙り南よ屋々て薬師堂一字あり堂よ  
り東北の方い水田陸田あり東西廿九間あり  
南北四十間あり城とい丹羽常隠よりサト郷俗云々

藤島城

友島村氏家あり西方字と云屋々々より地々  
あり四面よる云屋々々て東西二方を指の中に  
門々々の入口あり東大の入口廣サ三間四尺

ざりり云々云屋々の直高二間東西廿七間あり古城

三十間南北廿七間と除て廿七間あり城とい古城

志よ丹羽右馬允より屋々々云屋々々村妙仙寺所

苑の丹羽家系右進太夫氏識の傳小尾州藤

島城主丹羽右馬允雖為岩寄庶族別立一家萬

任我意故氏識度々押寄藤島城令苦之右馬允

智力不能及請救於信長信長即為右馬允向岩

崎先陣既到横山時父氏清留主岩寄城氏識



垣——东南二方、深谷と境——と右城内東  
西二十間南水二十間ありと城之内福を新也  
——と人いづりけ界内と城之内とあり

### 野方東城

野方村上井田より地より山井の谷のあり  
居る地より土居又塔構より四至さぶら  
りまが——と村の四辺水東西十八間南水  
十八間あり——と城址は陸田と城は姓名あり

れど

### 同所西城

田村下井田より地より東南に隅に土居の  
形よりて杉樹むら——と西水の隅に  
ち抜いきり沙なり界内水田及陸田あり東  
西十五間南水十五間ありと村の四辺より海  
へのうらの字に——と城之内とあり此村は城  
といれ名とありあり

米、木、城

米、本村市場より北の民家の西にあり、今  
より北にけしきの子と無也、敷よりより東  
西十六間、南に十四間、よりあり、南の方より敷  
二間、幅東西十六間、より直なり、是と無也、敷と  
よりあり、敷とけしき、皆畠より、城とあり、ねん  
北の方、寛書小其墟上畠四畝十九歩、よりあり

諸輪南城

法橋村より西にあり、より北にあり、唐屋とあり、跡ありが

長屋敷にあり、より南にあり、西にあり、三方より、古船又埋り

東の方、大に口に形勢あり、今も表を屋門の

入口より、東より、南にあり、古船の芝にあり、古本の

松並にあり、けしき、長平、同名を屋

津城、津造、そのとこ、三河、よりあり、せり、せて、移

し、移し、より、其、所、あり、苗、あり、かく、大木、と、せ、茂

き、なり、そ、に、移、り、より、進、進、より、より、極、並

たりのとどけを指の少く大きぬる池ありの府志に  
城眼池といふすなりと云うりてけ勤王が  
あゝ古代よりけ地の郷士として先祖は松植道昌  
といふれり世にたゞ村者といふれりが  
道昌より新と改りりて城といふりて道  
昌より以常といふりて天文の以山口五所次所  
が足将大將小松植宗十所と云あるに歴代の  
うち又の目録もやあんな四家あり事い較

たけとて家譜記録のよりぬく火と失て万石  
といふりて今の勤王といふり城址は東西二十七  
間南北二十八間あり

同所中城

田村より後とて地あり東北二方竹藪南  
西二方松林とて西北南三方土壇形あり良乃  
の陽に民家一戸ありて土師の器白土の東西二十間  
南北八間あり城といふ母形跡なりと云うりて郷

人いなり

同所北城

丹村上原と云氏居の小れ郷あり東南二方  
高古居のり西小二方に居りて小松交りの竹  
藪あり土居居幅と除て東西二十八間南小四  
十間りの城と丹羽右近を定りて郷人いなり  
府志よハ諸和城ニツて記て土人曰一則丹羽道休  
と云地方を書し丹羽道休城以畠ニ畝十二歩

と云ハすなほり是より右近大丈ハ張州志畧小

按丹羽系譜に丹羽右近大丈源氏識若狭守氏清子築城

於尾張國愛智郡諸輪郷云々の氏識の法

名と道休といなり

傍爾本城

傍尔本村市場と云城あり東ハ谷と云平田  
と云ト一南西小三方ハ居り四面ハ杉林竹藪  
と云りの西小の隅ハ氏戸一畑ありて云ハ皆

畠より東西三十一間南北三十四間あり城は  
府志及地方志書小丹羽右進より云ふ  
城は此右進は丹羽右進大友氏勝とて  
次郎二郎氏重二代恒一と云ふ

### 皆掛城

皆掛村慈光寺の東より西より四面堀あり  
南の方より居て民戸三烟とて竹藪あり府志  
に東西六十二間南北二十二間あり

東西二十二間南北六十二間あり城は嘉慶二

年に同郡祐福寺再建の詔より藤左近おと

長安初小野田入道阿願の裔近左京進明徳

等以下継々歴代相承して同九十郎景春に

至る景春は永禄三年庚申五月今川義元の

桶狭合戦のとき同日小ヶ城を戦死して

空城なり信長記よきて大高皆掛は新附鳴河教方の城

ありかくて後減田玄蕃よりありと云ふ

くももつとくくく其ハ府志云々按

東照宮御年譜曰永禄三年五月公襲尾州沓

掛城焼民家而歸傳曰此時織田玄蕃在此屢

與岡寄挑戦くく又梁田出羽守

太閤記 一之卷

に信長云今川義元と討つて後出羽守ト

此左衛門 門太郎

同左衛門太郎 天正三年三月に別喜右近と改名たりと府志云々按梁

田出羽守後因信長命改名別喜右近と云々又徇行記聖應寺乃

修下小此寺ハ永禄十戊辰年別喜右近創建云々天正七己卯

年六月六日右近卒 牌子小法名前羽州太守景岩宗徳大禪

定門裏に當寺大檀那とありと云々此兩記もふりやまれり

右近ハ出羽守子左衛門太郎の後名と云々改名の年月上より

織田越中守川口久助等あり

### 鳴海根古屋城

鳴海郡の根古屋と云々此より村の北に東

西七十三間南水三十間と記しと云々東西七十

五間半あり南水三十間あり四面は堀あり

北九二丸堀あり堀あり城域なる畠なり北

方覺書云東西九十二間南水二十間とあり城云

安原備中守之存号如少所之信又作之同右馬尉  
信盛之子甚有少正持等より村の四記よ云  
只今留よ少成しん四百平少安原備中守  
左傳よ少傳よ存永禄平中同如少所之信と  
十に諸人々體よ少鳴海一少我運高は古成え  
之善信之用意有少信人教大勢よ少成の月  
鳴海町名を平相新せよ少信源一少成の信を  
之通小成並少信よ信をより少信月の成右

の其所は信成水之しん中少信よ信を少成代よ  
至て作之同右馬尉同少成少父少子少成しん中

信

沖代よ少成少成少成所殿 福門 不那 信有(口)少成少成少成

少成少成一見自泳 古字も我もじよ少成少成  
神祇の神を少成少成少成少成少成少成少成  
少成少成入来て少成少成修造少成少成少成少成  
少成少成少成少成少成少成少成少成少成少成  
少成少成少成少成少成少成少成少成少成少成

大量強勇にもひやまていみじくあり

同所丹下城

丹波丹下より下城あり村の四代より東西四十  
一間有る水二十間割れ場より九町子の方より  
ありしより城址すべて畠より突ハ東西  
四十六間有る水十三間あり水祿の比水也書一  
山口海老巫柘植玄蕃元あり居り

同所中嶋城

丹波中嶋より下城あり府川の比民居の  
中より城域より割れ場より辰巳  
方四町より多し一町代小長八十間幅五十  
間とかけり水祿の比権川平は島より四壱  
より民居より間敷より民家乃  
裏竹林の中よりいきなり堀ありと権川が墓  
あり

同所善照寺岩

若忠寺より北より割れ場より六町弁  
の方より四址より古松樹七本あり四祀より東西  
三十三間南も二十間より北も東西二十間  
より南も十六間より北も界田より畠也  
佐久間左系ゆよりあり

### 島田城

清田村のよりあり東西四十二間南も百一  
間よりあり南の方畠少く北の方に氏家三

畑より城より牧虎籠より府志より  
二一此より北より三家より牧氏の内若  
古馬の虎籠に正統の商よりあり若古馬  
より北に分派して牧氏惣計十七家  
よりあり田村北籠寺の縁起より牧右近より  
義次より右近義汎より士あり義次より南  
より斯波右兵衛督義廉の四男より天文十  
年三月南寺を修むより存永禄三年丑月兵火

小焼亡したると右近義汎再造をまじりて天  
正二年七月義汎お目一時は痢病をやみりり  
とありの地藏よりして怪氣しける右近堂を  
厚敷のうらふりして再建は去年七月始  
男虎太郎地藏の靈をよりにて、水く寺に  
附屋したるよし天正十九年辛卯二月にけり  
日寺の右縁部よりいふいふゆゑ虎太郎と  
ありは虎龍の初名り又虎を所若子虎とあり

ありむりり記まへて右近及日堂の目  
より家譜よりいへる代詳よりいふと承り若  
右近が遠祖は虎龍とて虎を所すなり義次  
が家系なり

### 中根南城

中根村西市場より北の南に方より界目  
すし富より北の方塔の屋サ廿五間半東西  
廿八間南廿七間よりあり城は織田氏中

一府志より信長記一之卷小中根殿あり  
今郷人々名とるべ又同書小土人亦曰  
織田越中者天性魯鈍人也常隱居不出有馬一  
匹聲言五十餘匹使奴僕終日刷洗而失其傳按織  
田信秀時熱田高家有一女甚美信秀奪以為妾  
生子名越中甚痴凱隱居信秀没後水野野州  
信元娶其妾生三子云恐是越中此人也  
一府志より

### 同所中城

目村南城の北一方一所むり村上と云代  
あり東西二十六間南北二十四間あり城  
村上跡あり一府志より一界内  
一陸田あり

### 同所北城

目村東市場より北の北の方大根山あり  
松樹茂り今より山城と界内詳なり

二十八間をくり南に二十九間をくり北に城を  
村上小膳をり、府志小中根城に在中根村  
土人曰一則織田越中一則村上弥右衛門一則村  
上承善各居之、ソをりけ之城あり、既古傳と  
ひて里人の姓名と知るものあり、其の上件きい  
め、其の姓名をいへば、其の姓をいへば、人つらんをり  
ごききと後人よく考き、そのてよ、府志よ承善と  
り、と今小膳をり、其の里長の後、其の城をいづれり

ふしり

新屋敷西城

新屋敷村西に切をり、北の北に方あり、東の  
方に二重堀あり、城墟よ、留王寺又氏古に相  
あり、其の古名が、其の古名よ、古井一所あり、こ  
古城のあり、其の古名よ、其の古名よ、東西九十六間、南に  
八十五間あり、西の方に門をり、其の古名よ、其の古名よ、  
城をり、山口新をり、其の古名よ、其の古名よ、



櫻村の内中村より地より本桜より郷の  
東北方より属す地より信長記及總見記より  
小いより中村城より四面より城の址皆田と  
なりて城内はすべて平面の畠よりなり東西  
四十八間南より五十間あり東南の隅より堀の址  
に尾師十苑より民戸一畑あり是はいと近  
き年より小よりなりてはりてあり城より山口  
太郎は馬射教房其子左馬助教徳其子九郎

次房教吉より教房は大同始祀周防国守長門  
守多々良朝臣正恒より廿二世山口孫次郎教仲二  
子より浄本院宗賢固山より一子より教徳は織田家に  
叛て今川義元より一子より其子九郎次郎教吉  
と共に信長公のわよりなりきなりき府志より櫻村城  
在櫻村其地呼大地掛土人曰中村氏居之不詳  
其名古址有古楠樹一株傳曰永祿中山口左馬助  
居之より二城のよりと一處よりまう人たりき甚誤

わり先此楊村より古城址三所ありて次は辨せり  
又け中村と云地名と名字の如く郷人のつひはく  
くまのりまね三年六月のひに此等の村あり  
中村と馬助城と記されば府志撰述のひより  
えりまねとて下れど其ハ誤り信長記一卷に  
亦中村鳴海の両城より山口なる物父子入るれ  
とありしが恨とすくむる細ありて謀叛と企て  
渡河勢と引入云々惣見記二卷小鳴海城に

も子息山口九郎次房と云る並左馬助ハ中村の  
在所と持権籠り云々多々良世系録山口教房が  
條下に太郎左衛門尉尾州中村城と云り  
も皆地名と云く明とのとやまねと云け城  
址ありの田畠の字の如くのころと民家ありねば  
名字のやうにハおあやまねと云り又自餘ハあ  
郡の内ハ中村と云く地あり其ハ倭名抄よりえ  
る四地と云く上件三書にあり中村と云り地

うりむらひの湯よへへん

同所大地掛北城

日村大地掛と云ふ城のわかれ方字とガウメと云ふ  
城より南の方谷れ同東の方入海と云ふ  
形勢のこね々水田小て小西二方よ堀の底田と云  
ふて界内ハ皆畠なり西北二方堀幅と添て東  
西三十三間南水二十五間あり此城ハかの府志に  
いたる古樹の楠木あり城より二所より小方小

ありぬり城との姓名をりぐし明存け城  
址よて里人ハガウメの城と云ふり

同所丸根城

日村丸根と云代より四面よ堀の底ありて  
界内すくく畠也西の方大口の形勢と云り  
四面堀接への外づらより捨に東西は十間南水  
二十間あり里人よ城との姓名と云る云々

笠寺寺部城

笠寺村の寺部より上地より七社大明神と  
し社の西より所よりけせすて留つてきて  
旧墟きぶより城といふ山口に盛重  
まゝ其子同日茂重俊の子半は馬村を始等  
より盛重は大同始建用防固守長門守多々  
良朝長心恒より廿二世山口源を盛幸の二子小  
て初は巖丸といふ将監より法名は傑峰  
院宗先天翁より重俊は天文十九年庚戌四月

十七日同郡松本城若小我おを長安院常松  
青山といふ又は道号と浄真といひり重婚は  
初名と熊丸といひ清光又半は馬村より  
一が別名して松雲といひり母は同族の所  
盛仲、女よりがて重婚南城と出て好是俊  
城といふより一が逐ふ文禄四年乙未七月廿八日  
よ豊臣秀吉公のため小四十七歳して京都小倉  
に自報して靈澤院松雲桂山といひり小妻と

事ハ世系録よりりえて明らむ

### 同所市場城

日村市場より比あり城址すて氏岳と  
ありて境域詳しき事あり城といふは近  
太夫安盛の子孫也安盛宗可其子海老五盛隆  
等より安盛ハ孫を所盛幸の才一子をおと  
盛重の兄より観心院宗盛安叟より宗可ハ  
本岳院宗可善慶と云盛隆ハありて我切

多ありて終に岩屋小堂河に我ありて  
法名道林道号と少主より此村長を古あり道  
林の子孫よりけかこの地邑ありに子孫程多  
け市場のより道林の碑石あり

### 星崎城

本比村田子屋より口の南に切より比より  
二町半より水の方より城域はやま岳より平  
面の陸田比へ南大より西又南の方二方を埋め

了 壇の廣サ七間東の方十六間なり堀幅と深ク  
南北二十四間東西廿六間なり城之内岡田助左馬  
直教之子女門守直孝之身伊勢守善日天心  
十二年甲申二月より山口半尾重徳日十四丙戌年  
より同半尾重徳重徳より日十六戊子年織田信  
雄より重徳より勢州茂福一万三千石とたまへり  
よりのてがけなり堀りし存城廢れり

### 戸部城

戸部村氏家より東南の方東海道の南なり  
旧墟より堀をて堀の形水田よ減れりけ地  
も笠寺の杉本よりありされいすなり多  
良世系録より小杉本城よりなり地方官書に  
杉本古城跡東西三十間南北六十間元年山口  
愛智長保のより今い畠よありしより城とい  
文安の以愛智助左馬吉清より歴代より小保  
ありし此吉清が文安三年丙寅九月十六日

に奉る字を伏して惣に二年戊子閏十月十三日  
小室智助左馬義清がける字を伏文明十五  
年三月廿一日一色愛智入道承永しかける古  
流又小田郡笠寺笠覆寺に花書よりり  
け古状より一色愛智よりり文安三年の事も是  
一色愛智助左馬吉清よりり一色の松本よりり  
らり隣よりり戸部村の地名よりり即け城地  
の少よりり又その城よりり戸部新左馬よりり

今里人よりり戸部新左馬の如漢軍流よりり  
世中軍記新左馬尾張人物志よりり其名見え  
たると或流よりり山口左馬助がると流河小今川  
家よりり戸部新左衛門よりりよりり府  
志に古簿書山口愛智居于此よりりあるとを併せ  
考て程よりり按よりり多し良世系録山口左馬助教絶が  
妹の女子よりり系下小尾州松本城よりり愛智妻よりり  
書よりりれは愛智よりり近縁者なるよりり左馬

助が此城より往來するに戸部と名のり又山口愛  
智と云ふ事ありし事あり

### 大喜田子城

大森村民家より西南の方田子池の北の方や  
高き岡に松樹ひびく事あり北の方ニヤ城  
上より北ありて北の山あり城下より字あり  
此をすくく平面の陸田つゞきて土居  
又城の北より北の山あり北の山あり

南に方松林のふら東西十間南北十四間半  
あり是より北のふら上よいつくやく城址字あり  
この城上より北の山あり北の山あり二町  
より北の山あり北の山あり北の山あり  
新田四郎と今も郷人といふ事あり其不  
審より府志に此村の城址と云つと字あり  
これに南は属する松林のふらと云ふ事あり  
んまのふら域甚狭少く問敷上よいつくやく

城墟きつむづき地方もあつど按よけね  
せのふい田子庄目の宅址とて城とあつむりの  
方域比形をねづとくもり城上とい別地あり  
くやわつむ又府志一則田光氏居之又曰森部  
氏居之とくけ森部氏と云こころハ古小勢  
田神官大喜五郎丸とく者け村ハほおほるか後  
築田よ家とくつをりきて称号と大喜とあつれ  
はあり大喜がほつふよりて村名とあつれふハ

あつど此大喜とくよりハ大毛とて和名抄に  
あつど四代あり大毛とダイケと訓で又ダイギと  
あつ後よ喜字よあつとあり波神官大喜の本  
姓ハ守部宿称あり此村の今の村長源義が名字  
とあつとあつて田堂十人館あつとあつ  
此則りの神官守部氏が同族とて古よりけ  
あつとあつとあり波神官の宅址ハ今も其所丸  
屋あつといひて田村のくち坊山とく地よあり

是を城址のやうに云ふ又説は誤り云々城墟と宅  
址とを云ひまゝに云ふべからず南東の城址は考  
決て二所といふ守部正統の厚田<sup>アツタ</sup>神宮<sup>ケミヤウ</sup>の  
けまの口名と名の似たに此地の同族は却て正  
き姓<sup>カネ</sup>と名字<sup>ミヤウ</sup>よりなるものあり

### 同所東北城

日村氏居の東山は厚く城あり塙の北水田と  
なりて境地はさる陸田なり東西三十間南水二

十四間をりあり徇行記小久治屋敷畠一段  
九歩是は岡本久治城址なり年貢地なれり  
元よりがくのやくしひはくさるしひ府志にも  
岡本久治居之土人所傳也と云ふし郷民今  
も是名と云ふなり此地と久治屋敷とを此西小  
塚て古墳ありと久治墓所なりといふなり  
この人ありふりいさむ考ゆき

### 高田城

高田村の内新池より池の東の方より界内  
すづく畠より水の傍より竹藪よりと溪あり  
東西五十九間南水二十八間半ありといふ城の  
府志小土人曰村瀬浄心居之其地今為陸田  
といふこゝに里民今も程々名を傳へしなり  
け村八鈕社あり元禄七年五月に梁牌ムナシに  
尾州東海道愛知郡高田氏神六社村瀬浄心  
熱田明神永禄七甲子年勸請有之元禄七甲

戌年迄百三十一年成甲戌五月下旬寫之者也  
別當松太夫實劔書之とありしと浄心が時代  
なり

御器所東城

沙雲所村東郷と云地あり水西二方塔が  
まゝに竹藪より界内皆畠より城の服部  
將監と府志よりしり此城址の西より  
く文之古ありと云村ありこれ佐野堂なり

將監が支商あり

同所西城

日村少市場と云比よりあり四面塔が角あり  
土居あり城墟の石あり二百四十間あり城は佐  
久間善作守家勝日民部丞助安等子孫歴  
代より家傳嘉吉元年日村八幡社を修造し  
助安の文安三年八月民部丞よりあり

米野城

米野村下流也と云氏長の東若洲川の西小

所は地よりりて字と城屋敷とあり境地と

氏家又田畠もあり東西四十八間南北五

十八間あり城は中川流よりありと府志に

いりや弘治の比南越も林岫源との力

よそ伝長よりり心のと海とあり

信長記よりあり

日比津乾屋敷城

此は村乾原長と云ふ地乃南の方より西  
 墟今の畠とて城屋敷と云ふり城といはれ  
 掃部と云はれり東西三十二間南北二十間を  
 くりりり田村大系寺に付城を野尻氏二家  
 の菩提寺と云ふとて古き書上帳の系葉河  
 其記は一ツ畑一段歩古城原長十七間四  
 尺横十七間外四方敷也尻藤根と云ふに居り  
 今河新田と成し一ツ畑一段歩古城

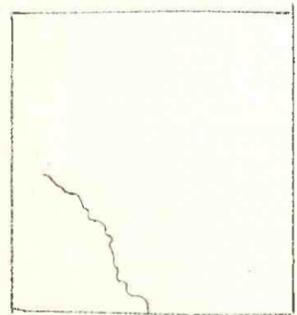
原長二十間横十八間三方敷也尻掃部と

云に居りしと云ふり又中尻氏の墓所あり  
 云ふとて寺境内といふ古き五輪二基  
 あり右五輪の表銘畧の如し

貞治四年  
 三月十八日

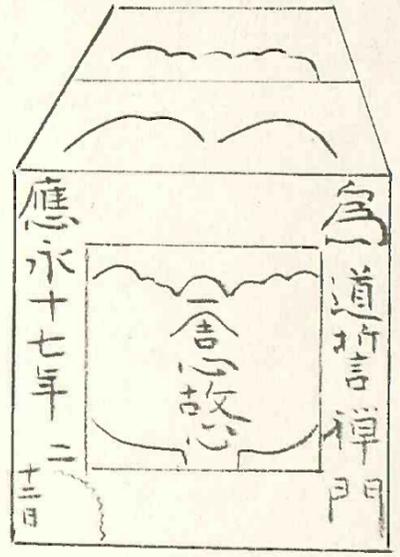
五

五



四面がりのめし三方に彫字ありて一方無銘の

交關損せり又一基ハ



此別れと一又大系寺境内此古城址の南  
隣りて松系屋敷と云ふ此の民家つきまはり  
松系屋敷と云ふ由縁と云ふ

同所栗山城

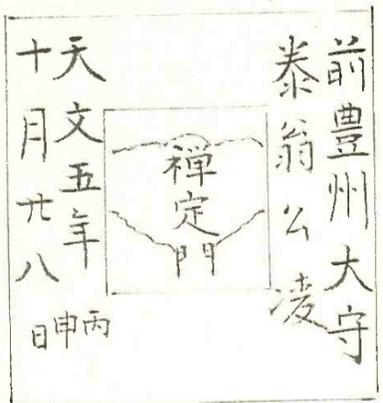
日村栗山と云ふ地より今民家と云うて長  
形は四角と云ふ二戸ありびつり東西三十間南  
北十九間と云うりあり南端をいせ尻屋松とて  
掃部の家と云うりきき郷民はくさり

稲葉地城

稲葉地村民居の西北の方字と云ふ古馬屋敷  
と云ふよりり界田は皆畠と云ふよりり

土境高く四面に塙あり形勢おもしろく  
 水田はまるともさうく顯存なり東西四十間  
 南北廿六間あり城は津田豊後と其子玄  
 蕃允と子与三郎と子小藤次おなり豊後守ハ  
 織田信長公の伯父とて十万石と領あり  
 天文五年丙申十月廿八日に卒て同日凌雲  
 寺に葬じ墓所石碑及位牌あり法名と凌  
 雲寺殿前豊州大守恭翁凌公居士と云立輪の

表銘家の如し



かくて玄蕃允ハ永禄十二年己巳十月十六日に  
 没て高岩勲公庵主とあり与三郎ハ永禄三年庚  
 申五月十九日桶迫間の没小我知して東英雄公

禪定門小藤次ハ天正十年壬午六月二日京都  
本能寺小戦死して千峯英公信士よりこれ  
より子孫も絶えて今ノ里長八十治と云ふ  
此津田ノ支族裔孫村中よすくま

烏<sup>カス</sup>森<sup>モリン</sup>城

烏森村小昭より地あり東西三六間南  
北三十一間をりつり惣ぐる埋り今ハ民  
家六軒けちよ垣り字と城屋敷と云城とい

杉原伯耆守長房其子左門寺より此左門子  
四所なるがせより百姓よりて子孫歴代此城址よ  
垣り浪花と云者ありこれ杉原名字よ長房  
の正統よりいり進き文政七申年小け浪花  
が教より有日よ書て出せるもの小左祖杉原  
左門之子に所なる者長年以來より烏森よ  
所領に取百姓よて相傳ふ七ヶ不田畠持る三  
百五十石解持所よと云所なる者男子ども多く

まゝ列取ぬはに度毎に持言死南に少今おぬ  
けり不係お儀は事しる南村宛初に二十五層  
有しつ同河さし退水成に八留つとて斗におぬ  
少とて基多清とす久し初方と只今只南家斗宛  
初より相取はさすつと初に先程に誠厚成に後在は南村  
和厚成揃積二十五同解翠河二十七八同解惣揃居  
江筋扣池茶掃本早中解の流は先程杉原一帯に  
菩提寺小松寺に心持は是又南家より柳御道

とすんは名古屋

津城津築とて鳥森村より 津城下へを流  
持身と料と先程の所は馬同敷に 津城と道且同に  
は所は馬のつとより巧つてそ方の道とて以て唱  
しつと只今に柳御道と唱しん 右を御道  
すつたなる村方古先とて是并に屋中へし守  
りしは少の流守影とて 文政七年申八月  
鳥森村に百姓浪乾日人将安島とつりけ文

程原多うりしとゞ要治と取捨し記せりきて  
此城址より了六形の円浪院と添て、源氏馬  
柳は馬 初院之院 角は馬よりひ名字は夜  
小塚言本洲也杉也と唱しり

### 岩塚城

岩塚院、円浪院の南に方遍慶寺の南に字  
と城前より上り此より上りしとありて  
此と先ひて旧址詳しとありて、  
遍考寺

の境内ししと地ありむらとてありありの  
地形やうくしてありて、  
吉田内記守氏入道長英が遠祖歴代の内ありし  
守氏、斯波武衛の一族なりしが武衛嘉徳の  
存長男内記元氏よ家督を継ぎて、  
長英し稱し、天文元年八月十日、  
かくて元氏、織田信長よはて、  
十三日、堺州大河内城に戦死す、其子吉田九郎

此處ハ信雄ノ跡ニ天正十九年ハ所居塚  
跡ハ付ハ七社大明神社ノ乾方ヨリ延傳  
願ノ東北ハ畝歩アル所ニ傳スルノ  
社司吉田氏ノ家譜ヨリ又長英ガ遠祖吉  
田治郎左馬重氏曰ク即モ吾等ガ名モ源水元  
年文明元年ヨリノ梁<sup>ムナブネ</sup>碑ヨリ長英ガ岩  
塚ノ塚モたりト云ハ吉田氏ノ家記モ尾陽  
雜記モ云々ト云

### 荒子城

荒子村民衆ノ西北ノ隅ニ小字<sup>コナ</sup>ト大<sup>オホ</sup>中<sup>ナカ</sup>ノ  
ツノ所ヨリ民衆ノ多クテ四址四至<sup>シツ</sup>ト  
スミツメ<sup>ツメ</sup>ト云フニ城形今モ渺<sup>シヤウ</sup>ト  
此<sup>コノ</sup>ノ字<sup>ナ</sup>ト古城ト云ナリ今モ陸田<sup>リクデン</sup>ト府  
志<sup>シ</sup>ヨリハ彼書撰述ノ以<sup>ヨリ</sup>モ陸田<sup>リクデン</sup>地<sup>チ</sup>ナリト  
ラんと今ハすべて百姓屋敷ト云ナリ四<sup>シ</sup>ノ<sup>ノ</sup>城  
墟<sup>ツ</sup>東西<sup>シ</sup>ニ<sup>ニ</sup>八<sup>ハチ</sup>間<sup>マ</sup>南<sup>ミナミ</sup>ニ<sup>ニ</sup>八<sup>ハチ</sup>間<sup>マ</sup>在<sup>ス</sup>ニ是<sup>コノ</sup>邑<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>西北<sup>ノ</sup>ト

あり城まハ前田又左衛門利家其子肥前守  
利長等あり

### 東起城

東起村民長の山西北方より居たり地を東  
れ方より民家一軒ありてまほあり南ハみる田  
とありて四至まほくあり糸ど大概東西六十四  
間南ハ七十二間あり城まハ前田三郎四郎と  
府志よい

### 下一色城

下一多村民家より西の方五條川の川原まで  
旧址をせりありて府志ハ土人曰前田与十  
郎居之今為河而古址悉ハ矣とあり

尾張志卷之二十八

深田増藏正韶謹撰

植松左衛門茂岳謹校

中尾八郎右衛門義稻謹輯

岡田六兵衛啓謹輯

春日井郡

四至のさくひ

當郡ハ國の内れ東北のくそて少て愛智郡の北れ

方よりイニ乾ニよりニ坤ニへニ長く凡八里ニなり南北ハ  
中稜ニくして三里ニなり也ニ東の方ハ三河國賀茂  
郡ニ隣ニり東北ハ美濃國の土岐郡ニも可児郡  
よニかり北ハニ丹羽郡ニと境ニして西の方ハ中  
島郡海東郡ニもニなりニ南ハニ愛智郡ニにニ接ニ也  
北東乃方ニハ山川多ニく西南の方ハ村里多ニくニは  
りて國のうニられぬニがニなるニの廣くニゆニくニ郡也

むし今ニのニあニるニやニ

むしニハ此郡ニとニあニるニぐニらニひニて愛智山田カスガ春部  
丹羽葉栗中島海部ア智多アと尾張の八郡ト  
ソニハニありニがニいつニのニびニよりニありニるニハ海部郡トとニなり

治承四年ニハ書ニるニ頼朝將軍の契  
田の寄附狀ニに海東郡トとニなり

スニレニバニモニリニサニキニニニ東西  
二郡トとニなりニるニやニ

山田郡トとニ接ニして其地トと多ニく  
アニズニグニの郡トハ今ニセニマニシニ愛智郡トも属ツケなり  
しニとニいつニくニなりニるニやニのニあニるニとニひニきニひニて文字も  
今ニレニバニ書ニ略ニしニるニやニ今山田ト莊トとニなりニるニ地ト

皆いゝ山田郡と少なり〜村里也三代実録  
貞觀十九年但馬國獲白雉尾張國に樹連  
理〜備後國より白鹿と貢〜寺の佳場よりて  
元慶と改元あり〜詔よ宜復尾張國百姓當年  
徭役春部郡免當年之庸〜和名額聚抄  
に春部加須 我倍〜わ〜と〜の延喜の民部式塵添塩  
囊抄等の古き書より小多〜春部〜り日  
延喜の神名式拾芥抄梅華元畫藏新撰類聚

往来等よ春日部と日文字とほて〜り  
三國傳記〜と〜之九天王此拜殿〜けた元  
龜元年此鰐口銘曰〜二年小奉細〜た  
契田の抄寶物の天満宮の画幅等〜春日郡カケモノ  
〜かけ〜シケ〜ひ〜と〜る〜び又今の文字と用〜  
事〜〜四五百年より〜ヤキの〜大須乃  
真福寺よ〜十住心論開書の終りに應永十  
六歳己丑尾州春日井郡云云と〜り

莊の名

小田井莊

小田井の上中下れ三郷と布所とをぬり

西小の方へ引つゝ後て二十餘村皆此莊なり

實相院門跡系譜

群書類従の諸門跡譜のうち  
多々實相院系譜よりある

に南瀧

院領尾張國於田江莊ありといふ事あり

山田莊

山田村と布所とを廣く東北西へ引つゝ後て

六十餘村此莊也昔の山田郡の北とて南の方愛

智郡の田も郡に名れ沙りて山田莊とす村多し

朝日莊

朝日村下郷村等二三ヶ村と朝日の莊といふ

熊野莊

熊野村と布所とを東少く長く西へ流す村近

二十餘村は此也契田の御社の宝物天満大自在

天神の画幅の奉納がきよ尾州春日郡熊野庄

住人溝口左京進時元龜三年壬申七月六日  
くろくきり

一色莊

青山村多場村等二三所此莊あり

船場莊

舟津村といり

田中莊

田中村といひて康正二年造内裏段錢并國役引

廿に藤民部又六郎殿尾州田中莊段錢と記り  
醍醐莊

勝川の一村といり

篠木莊

内津村といひる南西へ川つゝ存て三十三村  
此莊ありむいひ篠城といひかきて寛平二年の  
執田縁起小日本武尊還向尾張到篠城進  
食之云々ありたり吾妻鏡より建久五年十月

廿五日故鎌田兵衛尉正清息女叡上以尾  
張國志濃幾丹波國田名部兩莊地頭職令  
恩補給訖と云々三國傳記よ、今のゆく條  
木莊と云々

### 柏井莊

相河戸村中切村等其ありの四五村は  
和名類聚抄よ春部郡柏井と云りて  
古き地名あり

### 安食<sup>ア</sup>莊<sup>ジキ</sup>

福法中切成彰寺に三村此莊あり此郡の  
味銃村護國院小般若經の殘卷ありと云  
奥書よ安食西莊常觀寺勸進沙門覺禪曆  
應五年等の文字あり是日郡常觀寺村  
常觀寺に藏經ありが曆意の以印行の經あり  
塩尻よありたり莊号あり  
和名類聚抄よ春部郡安食と云

えくうに郷名なり吾妻鏡よき公定の  
分脈系譜等に葦敷<sup>ア</sup>三郎重義葦敷<sup>ニキ</sup>二郎  
重頼<sup>ミ</sup>とせし<sup>ハ</sup>少くの人と此人と平  
家物語盛衰記よき安食二郎安食太郎  
うらひり<sup>リ</sup>人物の系令をさす

味岡荘

朝野羣載小康和三年九月廿五日補諸宮  
御莊司<sup>中</sup>廳下味岡御莊司可令平時範朝

臣執行御莊雜務事云々といひてちき<sup>ニ</sup>莊地  
うら<sup>ガ</sup>小牧の南東小の方小針外山池内林のうら  
すま<sup>デ</sup>板村此莊のうらと尾張神名帳集  
説塩尻等小味密莊外山村林村うらと  
うらと府志よき<sup>ハ</sup>の村と熊也莊とし  
今里人もうら<sup>ハ</sup>ひ<sup>ハ</sup>たやと<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>る  
うら<sup>ハ</sup>其<sup>ハ</sup>秘<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>後<sup>ハ</sup>の考とあり

味岡新莊

康正二年造内裏段錢并國役引付に萬  
壽寺領尾州味岡新莊と云ふたり今いづく  
小うさよと云ふ村と云ふ

### 比良莊

比良村と云ふと云ふや織田真紀小永祿二年  
正月福德里人又左衛門者自比良莊往大野  
木村云云と云ふたり

### 稻生莊

稻生村光音寺村等と云ふと云ふや梅華  
無盡藏と云ふ尾之山田稻生莊光音寺云云と  
云々又と云ふ西と云ふ並と云ふ村と云ふも稻生の莊の内  
たりと云ふや名塚村新福寺村と云ふやと云ふ寺と云ふ  
いづもと云ふ山号と稻生山と云ふひて今小と云ふ名と云ふせ  
とと云ふとと云ふなり

### 狩津莊

今其代と云ふなりと云ふ本賀野長母寺小持と云ふ

古記のうらよ 文和三年二月廿日  
日一 年八月十日 尾張の本賀崎長母寺  
よ 所在地と宗派 一 たり 一 法文敷通り  
尾張國本賀崎長母寺領持津莊内山根  
ま 一 ころをり 木ヶ崎のを 一 ぬ 地を 一 けり  
ま 一 一 山照 一 子字アキの地 大分根村の内あり

郷の名

高田郷

高田寺村と本所と比良村二ヶ村久比野  
村井園村片場村と今をて高田の六郷  
と

村名

清須村

此郡のうら西のをて 一 名古をより二里  
西に方より小田井莊と 一 義濃路の宿牌  
なり 一 町をきく 一 たら 一 つき 一 京都江戸等往

朱の権人なる終ごしと姫より妻くも  
別系清須は巻よきる

須賀口村

清須の南望んく小塚町の南小並ひて名  
古屋より一里半のまり西より斯波氏清  
須は在城の北此より惣茶の町續きまて  
持女もわりくやうき米春秋小酒は酒屋  
ふふ系ハ系屋に女席ハ清須の須賀口少く

くひと今よ結くく世のりの婦女児童  
等うたふより以下六師村と二十餘邑ハ子  
小田井在より方と者きく村毎ふくま

西堀江村

須賀口は東よ並ひて名古屋より一里半西  
より此村は濃路の大道なれハ町屋もく  
体み茶屋等もわり

土畧野新田村

名古屋より一里のり西より西の方堀  
江よけのりむらしけ地とてかきけと地を  
したる所里れ名よより今いさる葉すば  
そのり

### 寺野村

須賀口の北東の方名古屋より一里半のり  
西の方のり

### 助七新田村

寺野の東よきひて名古屋より一里半のり  
西よりのり

### 田中村

清須の東よきび名古屋より二里西の方  
よりのり

### 阿原村

助七新田の西よりのり荒原ともみけり名古  
屋より一里半あまり西の方也

平田村

河系北東の方より名古屋より二里  
より西なり

上小田井村

名古屋より一里半竹乾の方楡生川のむら  
あり梅華元畫藏に淤臺よりき實相院門  
跡系譜よ於田江よりけみなるの事也

中小田井村

上小田井の南に並ひて名古屋より一里半なり

下小田井村

琵琶島橋の西より里より中小田井は西に  
つづけり村は南の方美濃河通より所屋を  
沿ふ西琵琶河より名古屋より一里なり

小場塚新田村

下小田井の西の方より名古屋より二里  
より西北より治承の末師長のたほきか

井戸田はなほ〜に於て都より移り〜時  
ろ〜〜みつ〜女のはり〜まで〜ひ〜  
せ〜が〜列〜く〜壇〜く〜や〜ひ〜え〜か〜み〜を  
賜〜ひ〜白菊〜け〜琵琶〜と〜し〜きて〜水〜よ〜入〜り  
せ〜け〜と〜は〜と〜れ〜が〜あ〜る〜し〜れ〜墓〜と〜あ〜る〜よ〜築〜きて〜あ〜び  
と〜塚〜と〜し〜ひ〜が〜里〜の〜名〜と〜あり〜や〜が〜と〜と〜を〜塚  
〜と〜詠〜り〜し〜る〜あり〜し〜ひ〜は〜し〜

中<sup>ナカノ</sup>郷<sup>ゴウ</sup>村

平田の西れ方名古屋より二里半より西  
北より

沖村

平田の西れ名古屋より二里北の方より  
九<sup>コ</sup>坪<sup>ツボ</sup>村

平田の北名古屋より二里北西の方より永  
禄十年紹巴が富士見道記に卯月廿二日今<sup>コ</sup>春<sup>ハル</sup>  
大夫勸進能芝居より九坪松元院に執けり

そとより陸奥南端の九坪九坪とくの一い  
しむ例もて九文とくふよみくればつがし  
く多しれでえれいゆーかびちのつがのつ  
たはここのつがしつがし小牧の少り外坪外坪村  
も十坪十坪とくもあらん其くく契田沙社の社  
寶藤原友重の刀に奉細ぐの彫文字に天正  
十四年八月八日このつが助七郎とかなんてかき  
たるとそとくも知る

### 野寄村

九坪の西に方名古屋より二里西少あり

### 石橋村

沖に西に名古屋より二里半あり  
にあり

### 宇福寺村

石橋の西に方名古屋より二里あり  
より延喜神名式に愛智郡伊副神社



法成寺の南の方にて名古屋より二里半あり

弥勒寺村

九坪野寄りの少くも名古屋より二里半あり

鹿田村

九坪に東北岩倉道の東北方名古屋より西二里半あり尾張國神名帳に従三位志賀田天神とのせり駿河風土記よりす鹿田

神社とてたゞ一回しきり知れ

能田村

麻田の東より並び名古屋より二里半あり

六師村

能田の東よりび名古屋より正北の方三里をめぐり延喜神名式小春日部郡牟都志しうき尾張神名帳の一本より今のめく六師とけりこれより小田井の南あり

下河原村

南郡のくち西南にありて名古屋  
より一里南西の方より山田庄より  
下よのすく子村は日一庄のくちあり

大野木村

名古屋より一里より北の方橋を川のありてに  
わり延喜神名式まゝ尾張國神名帳山田  
郡大乃伎とんえ紹巴が富士見道記に於大

野木義元

坊義元は連  
秋の達者

是草の花もて水とつ

みかゝるをせり大野木堤に古きとを

比良村

大野木の山よりありて名古屋より北の方一里半  
よりあり

高田寺村

能田に南の方名古屋より北二里あり  
和名類聚抄に春部郡高苑とあり尾張

神名帳より後三位小高園天神とありと天野  
信景が集流よこの地名と一ヶ村の白山に  
社とあり并うとあり高田と高苑と  
まじよづま地名とねづまはくまあり  
てまういふや

### 久地野村

新川と隔て比良の北の方より名吉屋  
より一里半あり

### 二子村

久地北の西の方名吉屋より一里半あり

### 井関村

麻田能田北の方名吉屋より北西二里あり  
ふあり井瀬本ともかきとわせぎく木文子  
通てあり

### 片場村

久地北の北名吉屋より二里あり北西の方あり

如意村

月場の東北方小滝ら小牧道に西よりて名  
右屋より水の方二里なりとの名と神戸といひ  
しより塩尻ふるさつれが和名類聚抄より  
きく山田郡の神戸いふなり又蜻川親元  
日記小武庫御被官尾州神戸弾正貞則より  
尾州神戸七郎より五月朔日寛正六年尾  
州神戸御被進上云々よりたゞ神戸も

ありきと日十日に降る尾州山田蜻川  
出雲守在莊也といふて山田郡より  
事どもと多く記され中島郡の神  
戸よりいふてびきり村名と今のと改り  
る塩尻より田村大井神社の本地佛小如  
意堂ありし所よりうつりたりありあり  
場應寺の山号と如意山といふも村名より  
よりより

味鏡村

名古屋より一里餘小の方味鏡川の所より

國君御參府御帰國の途よりせりと本宮路  
とよらせ給ふ所の宿道として農家多く野を  
並べしるが所也此より延喜神名式より尾  
張國神名帳より味鏡よりけしるが本字ありと中  
じより鏡の字と鏡より語りて沙石集より尾張

國味鏡より下よりより康正二年造内裡  
段錢并國役引付に拾貫文玉泉寺領尾州  
味鏡分段錢よりしるがめく法書より語り  
しるが南村天永寺に古縁起より鏡池より  
靈池ありし味鏡山と名づけしより  
附會してかきしるが先より老の人多し  
源明公よりしるがしるが記

きふ復りて味鏡しうたぬまきりし令せ  
とまひるんばおほやけし私よもりまひく  
其ゆいひとるけぬ

下津尾村

龍泉寺山の西に蘇味鏡川の西に三里  
よそ名古屋より二里ゆり北東の方より

吉根村

下津尾の東北に方川のむいよりそ名古屋

より二里より良方より三國傳記小尾州

春日郡篠木莊密藏院能化慈妙上人九龍膏

云藥調諸人施是用莫不明目奇特妙藥也爰山田

莊吉根郷云所下女有依有一暎此藥所望時幸

楠丸云小兒在ケルガ其藥ヲ取テ與ト御前社候

人ハ見タリケルニ彼女家畝忽絶入家中親類共肝消

声声呼稱有蘓生下女語ケルハ龍山寺普賢菩薩

乘給者藥採我授其面影恐敷被思頓死

セリト云云彼幸楠丸其時他行時分也不思議  
ナル事也量知家頭歡喜天常隨給仕給事可  
貴敬者也とありやりあやしく文つゝまけとど  
其郷名れ古書に云々たるがむむしうれが志  
むしうれとありまけとど

下志段味村

名根の東少とて名古屋より三里半條の北東  
小河り和名類聚抄小山田郡志誤とくけり

誤ハ談のりやまりとて志談とくくア濃國方  
縣郡の志段味村と曰く和名抄は思淡とく  
したる少くもとく知とたり近江の志賀とて  
幸と類聚國史日本後紀にふ紫郷山寺とて  
仰しと例りてけ志誤も南郡の志賀村と  
も思つれどさよいはりて此村とて

中志段味村

下志段味の東北の方と並べて名古屋よりハ

四里をうりわり

上志段味村

中志段味の良の方より並べり上中下三郷とも  
玉也川の東に名を屋より北東の方なり

下水野村

上志段味北東よりわりて名を屋より東北に  
方五里をうりなり

中水野村

下水野の東よりび名を屋より五里餘良の  
方より

上水野村

中水野の東より名を屋より五里をうり北  
東に方より上中下の三郷とも代産く穀  
里小ワリり沙林の山々北の方につらなり農家  
とあり此山の峽よりて幽陰の代山水奇景  
のそぐれとも少なり

片草村

南郡のうら東のまそなる里少く名古屋よ  
す七里餘母寅の方より東の方山と隔る  
又遠の土岐郡板野村より

白岩村

片草の南西の方名古屋より六里半北東にあり

上半田川村

片草の西の方名古屋より良の方六里半餘あり

下半田川村

上半田川の少よりりて名古屋よりの里数上村

よ回り

沓掛村

下半田川に西よりりて名古屋より北東の方  
六里あり

上品野村

白岩の南西よりりて名古屋より北東六里あり

あり東の方三河の賀茂郡市也村よきけ  
村の地勢平<sup>サマ</sup>地すくま<sup>サマ</sup>く田畑<sup>サマ</sup>ら<sup>サマ</sup>山<sup>サマ</sup>の腹<sup>サマ</sup>より  
こして上より下へ階級とあり田小ハ一<sup>サマ</sup>段<sup>サマ</sup>く<sup>サマ</sup>れ  
さうひ<sup>サマ</sup>の畦<sup>サマ</sup>と<sup>サマ</sup>して水とた<sup>サマ</sup>ら<sup>サマ</sup>る<sup>サマ</sup>が波<sup>サマ</sup>更<sup>サマ</sup>級<sup>サマ</sup>郡<sup>サマ</sup>の  
田毎<sup>サマ</sup>れ月<sup>サマ</sup>よりく<sup>サマ</sup>似<sup>サマ</sup>か<sup>サマ</sup>よ<sup>サマ</sup>ひ<sup>サマ</sup>り<sup>サマ</sup>品<sup>サマ</sup>野<sup>サマ</sup>と<sup>サマ</sup>ハ野<sup>サマ</sup>に  
高<sup>サマ</sup>下<sup>サマ</sup>の<sup>サマ</sup>ふ<sup>サマ</sup>く<sup>サマ</sup>あ<sup>サマ</sup>を<sup>サマ</sup>と<sup>サマ</sup>り<sup>サマ</sup>よ<sup>サマ</sup>名<sup>サマ</sup>よ<sup>サマ</sup>て更<sup>サマ</sup>科<sup>サマ</sup>植<sup>サマ</sup>科<sup>サマ</sup>蓼<sup>サマ</sup>  
科<sup>サマ</sup>倉<sup>サマ</sup>科<sup>サマ</sup>仁<sup>サマ</sup>科<sup>サマ</sup>と<sup>サマ</sup>して階<sup>サマ</sup>級<sup>サマ</sup>あ<sup>サマ</sup>る<sup>サマ</sup>地<sup>サマ</sup>より<sup>サマ</sup>起<sup>サマ</sup>り  
て因<sup>サマ</sup>れ<sup>サマ</sup>名<sup>サマ</sup>を<sup>サマ</sup>科<sup>サマ</sup>野<sup>サマ</sup>と<sup>サマ</sup>い<sup>サマ</sup>ひ<sup>サマ</sup>そ<sup>サマ</sup>り<sup>サマ</sup>て日<sup>サマ</sup>一<sup>サマ</sup>例<sup>サマ</sup>の<sup>サマ</sup>里<sup>サマ</sup>

れ名なり

### 中品野村

上品地の南西よき<sup>サマ</sup>い<sup>サマ</sup>名<sup>サマ</sup>古<sup>サマ</sup>屋<sup>サマ</sup>より六<sup>サマ</sup>里<sup>サマ</sup>あり

### 下品野村

中品地の南西より<sup>サマ</sup>り<sup>サマ</sup>て名<sup>サマ</sup>古<sup>サマ</sup>屋<sup>サマ</sup>より六<sup>サマ</sup>里<sup>サマ</sup>あり  
東北の方より上<sup>サマ</sup>中<sup>サマ</sup>下<sup>サマ</sup>の<sup>サマ</sup>三<sup>サマ</sup>村<sup>サマ</sup>より<sup>サマ</sup>よ<sup>サマ</sup>き<sup>サマ</sup>代<sup>サマ</sup>廣<sup>サマ</sup>く  
山の峻<sup>サマ</sup>新<sup>サマ</sup>くに<sup>サマ</sup>人<sup>サマ</sup>家<sup>サマ</sup>む<sup>サマ</sup>ら<sup>サマ</sup>り<sup>サマ</sup>て<sup>サマ</sup>こ<sup>サマ</sup>き<sup>サマ</sup>さ<sup>サマ</sup>る<sup>サマ</sup>水<sup>サマ</sup>燈<sup>サマ</sup>  
の郷<sup>サマ</sup>よ<sup>サマ</sup>日<sup>サマ</sup>一<sup>サマ</sup>

赤津村

山と隔て下流せより南に方名古庄より  
六里をり東北の方より此東の方ハ三河の  
賀茂郡折平村にあり飽津アカツの文字と  
くまがほせ今のくまび寛正五年甲申  
三月六日よ字くま聖徳太子傳は村の万徳  
寺ありて其本の梁書ハ尾州山田郡内飽津  
保上村於太子堂寄進之とあり又南村白

阪サカの雲興寺の古書よりくま飽津と記したる  
もの多し

瀬戸村

赤津に西南の方より名古庄より東北五里  
あり瀬戸ハ海濱よりありる名古庄に  
藤四郎春慶よりよりの宋園ハ源り陶器とや  
くまとおひはく帰りけるが智多郡常滑の  
ありの海をよきとありる名古庄と瀬戸

おと名づけしこほ古姓のよに地とありて  
け地小竈とゆりて多く焼出さるが所陶器  
と瀬戸おとこりよりやがて村名中より  
アツクしこほはくさぬといふめんその夜  
四郎があらし世をくぬ水亨十年戊午十  
一月吉日に海く釣鐘一口け村の八王子社  
よりして其流よ娑婆世界南膳部州大日  
本國尾張山田郡内瀬戸村よりつけられ

陶器スエミの名より起りたりといひざりて

### 今村

瀬戸ト品也等の西南の方名をより四里  
をりより北の方今村新田の古名を横山  
村といひて樋口好古といふ

### 美濃野池村

今村の南の方名をより五里より美智郡  
山口村のうひより野文字といふといふ

狩宿村

其濃池の西よ並び名古屋より四里餘あり

瀬戸川村

狩宿の西よりありて名古屋より四里東北の方より瀬戸村の山より瀬戸川流るる公介村の代と経く此村より山口川より彦合より村名  
よりより部よりとて

井田村

瀬戸川の西名古屋より三里半あり

稲葉村

井田の西よ並び名古屋より三里餘東よりあり

印場村

稲葉の西よの方名古屋より三里あり日本書紀に天渟中原瀛真人天皇五年九月丙戌神祇官奏曰為新嘗卜國郡也齋忌齋忌此云踰既則尾張國山田郡次次此云須岐則丹波國訶沙郡並食下

丹波此上の別れ字印行本日本  
紀より今古写本によりて記す

忌の齋場よりしてりし齋場村もかきし  
存今の文字よび物部印葉連も古き尾  
張人よびてし

### 大森村

印場の西南に並び名古屋より二里半東  
小よりして瀬戸水也品也是く道節也

### 荒井村

印場此北東よて名古屋より三里半良の  
方より新居も新井もきあへり

### 猪子石村

河城此正東の方か来所の先二里より野  
猪此形したる石ニツあり雌雄備りきまむ  
村名よび来より

### 小幡村

大森の西此方名古屋より東此の方二里に

ありしハ小治田尾張田々もわき小治田連フバリタリ  
薬なまといふ人の親族シツカといふ多くけふありしが  
八人姓氏と尾張宿称と改めしよしそハ古  
の西の方ある小針村を本貫の地とすアサヒ  
さふ多き一族うれはさむとて一和ふありし  
しと数所よりとてけむとすもありしな  
るべしけ村のわき方の山もなき塚の跡多く  
ありて葬具なるの地中より物々事々ありし

彼氏人等が墓跡々々一又三之九天王社拜  
殿にけしき鰐口銘小尾張春日郡山田莊  
小幡長谷村勝軍地藏堂鰐口元龜元年八月  
廿四日本願三藏坊とあり

### 牛牧村

小幡の西の方名古屋より二里をり東に  
あり續日本紀に文武天皇四年二月丙寅令  
諸國定牧地放牛馬ト江ト今法ト牧也牛

牧多と云ふ地は牧牛馬と放飼し此の古名は  
のりくまき多けまはちくまき此れ牛牧の地  
れはぬまき

大森垣外村

牛牧の西南に方名を屋より良の方二里あり

河村

牛牧に北より名を屋より二里あり東小の方也

大永寺村

大森垣外に西より並び名を屋より一里半あり  
東北よりありてむし宮地村と云ふが  
大永二年  
屍に春日井郡山田庄大永寺村大永禪寺ハ  
古寺の舊跡あり川村の庄岡田伊勢守時常  
大永二年小再建して栢悦道仙和尚と中具  
一世祖と云ふあり今守山村の枝村に宮  
地と云ふ地人家数軒あり

金屋坊村

牛牧の南名古屋より二里半峰東山の方より

幸心村

大永寺の西よりて名古屋より良の方一里半こ

守山村

大岩根の東北の方山田川の匂ひる里とて水

野瀬戸街道名古屋より一里半よりこ

大幸村

守山の南東の方矢田川の匂ひ名古屋よりハ

東の方一里餘より

矢田村

大幸の西よりて大曾根北東の方名古屋よ

こ一里餘より

上野村

大幸の南の方出木町の先よりて名古屋

より一里餘東の方より甲一郡のうら藤本を

小上せ村のうまうまるとむくく清和作多  
くはくはの湯屋上せとと

### 山田村

矢田の西よ並び大分程の先<sup>+</sup>名古屋より  
一里餘よりり是山田郡の本郷より尾張源  
氏の武士山田氏が本貫の地なり

### 瀬古村

山田の北れ方矢田川のありと名古屋より

一里半よりより瀬古はもと勢子にて  
役夫の通称なりが其一族なり地と  
その勢子がこの勢子と並びてはひが  
やぐせ地名のよりよりおまねが今の契田の  
大瀬古は契田の勢子よりより地名なり  
たぐやくともとも山田の勢子の一族なり  
地が村名なりとのなるなり

### 辻村

瀬古の南西の方矢田川と濁て名古屋より一里餘あり

上飯田村

山田の西北過の東南より名古屋より一里半良乃方也契田の大系原の境の込小元龜三年壬申十月檀那尾州春日井郡山田莊上飯田村住人吉田氏ニニスたり

下飯田村

上飯田の南より並び名古屋より一里餘北より大曾根村

名古屋小東のより町つき清川河邊乃出口なり街道あり勝川坂下内津と處て美濃れ池田よりあり土岐口釜戸等此處を経て東山道の大井津より信濃と下海道より

東志賀村

志水所に先名古屋より水の方半里餘あり  
小牧街道小家庭してまき浦町屋の

西志賀村

東志賀の西に並び名古屋より半里あり

安井村

東志賀に水名古屋より水の方一里餘あり

光音寺村

安井の西名古屋より一里水の方一里あり

森網村より南村に光音寺建立の  
寺号よりありて村名ありありあり

六所明神社に古き柏大ありて其臺の裏銘

小尾州山田莊森網郷六所明神且那富野

左京亮天文十六年九月吉日とあり光

音寺より名ハ梅華元盡藏小尾之山田稻生

莊光音寺とあり

稻生村

光音寺此西に並び名古谷より中下口一里北  
より延喜神名式に伊奴神社又尾張神  
名帳小従三位伊奴天神といふ所の神出て出  
雲風土記に秋鹿郡伊農<sup>伊努</sup>といふ所に  
例の郷名ありて梅華元盡藏も福生庄と  
いふ所の梅華元盡藏も福生庄と  
今ハ福生郡と書くは又伊勢國奄藝郡  
福生村ハ神名式に伊奈富神社といふを

ハ村ハ伊賀國伊賀郡此福生村ハ伊勢の  
國といふは村名なり山城ハ西山の粟<sup>アハ</sup>  
生村曰ハ北山の芥生ハ里美濃ハ蕨生曰

ハ國の芋生<sup>イモ</sup>今ハ今尾<sup>イモ</sup>上野の桐生<sup>キナ</sup>近江の椽生<sup>トナ</sup>越  
前の竹生<sup>タケ</sup>三河の薦生<sup>コモ</sup>等程に例にハ福  
生すなりハ文字もいふらん

### 名塚村

福生の西より名古谷より西一里より

堀越村

枇杷島にありて名を金より西山の方  
一里餘あり

新福寺村

堀越の北東より一里餘あり

田幡村

沓城に北に深井フケヤに柵ヤラヒのありて四名  
なるをいふが今もあらず

らり延喜神名式に山田郡多奈波太神社  
の舊社もいふに其跡あり也  
大須観音の釋論開解抄の應安五年五  
月六日付書に於尾張國山田莊田幡郷宿坊  
書寫ありたり

児玉村

押切町の北の方より名を金より半里餘  
西山の方より南村の垣人丹羽氏が武藏に

児玉黨の武士もさうが南ふにあり此地は  
名彼武藏の地名と引てあるも児玉といひ  
そめやぐそ村名とありしむ心人物は丹羽  
長秀は係と今を考ふべし

枇杷島村

名を屋に西の方一里をりよりて英法  
の往還通れ所をゆきあり今琵琶は文字  
と引いて雅より詩文み規則とあり

枇杷も琵琶と同音とゆくと俗に  
雅よりも空のうきをわひよりき  
愚るこゝ知よはちり異國人も目  
かや開巻一笑とよふ枇杷菓に琵琶  
の文字と誤り用ひしとよふ  
あるなりとの六十餘村は皆山田莊なり

朝日村

清瀬の田中町の少なりて名を屋より二里

西北に方より南村又落合村まで三ヶ村と朝日  
莊と名づり享永十六年小うつた十位心  
論聞書の奥書小於尾州春日井郡朝日室寺  
書寫了とス〜〜〜ちき地名あり

下郷村

朝日の小よ並び名ち屋より乾の方二里より

落合村

下郷に北西の方名ち屋より二里解西小の方よ

りり枝口を不ありて宮重祇豆屋分地蓮華寺  
西牧より康正二年造内裏段錢并國役引  
付に貳貫文伊勢左京亮殿尾張國落合郷  
段錢とススあり

徳重村

法成寺の北に方生田川の南に岸名ち屋  
より二里より乾よりりりて徳重莊の目之以下  
三十餘村目と名づると村毎より一〜二ヶ枝村

一列のりて本野より石倉湖迄生田橋の南  
法多し人家あり桃華葉葉れ修り家領并敷  
地等之事より修り尾張國徳重保普廣院贈  
相國初所宛給也と云々文明の比より以此  
一條殿家れ領地ありし也

鍛治カチ一色村

注その西名古屋より三里西の方より

薬師寺村

本也れ東山の方名古屋より西北の方三里  
内あり

藤フナ島シマ村

薬師寺に東の方名古屋より三里内乾れ  
方より中島郡荊安村國照寺に什宝  
小あり此銅磬あり其詔より藤島賢林寺  
勸進僧公明天福二年甲午二月十五日二十  
一字と彫附あり古き地名多しと云々了

熊庄村

尾張の南より河りて名古屋より三里ばかり  
乾の方より

小木村

尾張北小東の方名古屋より三里ばかり  
北より

大氣村

小木の南東名古屋北の方三里ばかり  
河り延喜神名式より多氣神社より河り北よりとい

アズ多氣いたけとむアズいづあん程  
と考ふと和名抄より愛智郡大毛といふを  
あつと足と郡もたがひれなきといふと  
その契田の東より大喜村といふ

坂場村

大氣の東より河りて名古屋より三里ばかり  
延喜神名式より尾張神名帳より坂庭といふ  
うの地名より神社は今三明神といふ祠あり

小針村

坂場の少よあ〜び名古屋の小れ方三里より  
その名尾張村とて國号の起れる本所也  
美濃國加茂郡の大針村と曰し例の里に  
て田畠と墾開きたるより起れる名あり

一久田村

坂場小計の東れ方名古屋より小の方三里に  
あり枝口三所ありて江中定普信テウフシ小原コハラあり

小牧村

一久田れ少よあ〜び名古屋より三里少あり  
江戸へ江来の木曾路より出る官道の宿驛ウマヅキとて  
所屋立は〜とて商人多く賑あり

間々村

小牧山の北れ麓あり里とて名古屋より三里  
修りむ〜の實とも真とも去〜とて  
尾張神名帳に山田郡正四位下實々天神と



三淵村

西流の南西れ方よりて名ちをより、三里半より水の方より

河内屋新田村

村中の水の方よりて名ちをより四里水の方

岩崎村

間々原新田の水の方名ちをより四里より水より枝村一所ありて町屋より

久保一色村

名流れ北東の方名ちをより四里水より

北外山村

小牧の南より並ひ名ちをより水の方三里あり  
梅華無盡藏小尾州路春日部郡砥山郷と云  
延喜神名式より尾張神名帳に今のボトク  
外山の文字と用ひより

南外山村

わが山の南に並び名を屋より三里少あり

春日井原新田村

南の山の南に並び名を屋より二里半あり

牛山村

山の東にあり名を屋より三里少あり

大手村

牛山の南にあり名を屋より三里半あり

田<sup>ラガ</sup>樂村

大子の山の南にあり名を屋より三里少あり

二重堀村

小牧の山の東にあり名を屋より三里少あり

下末村

田樂の山の南にあり名を屋より三里半あり

上末村

下末にあり並び名を屋より四里あり上末

下末にあり一郷とて和名類聚抄小山田郡主恵と

河、里多り神鳳抄より尾張國末御厨と  
今の文字よりけり

文津村

上末北西の方名ち屋より四里北東より

小松寺村

文津北西の方名ち屋より四里北西より

本莊村

名古屋より北東北方四里北西より小松寺

北東の並びよりむしれ味岡北本莊より  
其名れ沙りたるやゆむ今之始くより古  
記小味岡庄新庄と云々なるを考へて

池内村

本莊の北東名ち屋より北東方四里半にあり

林村

池内北東北の方名ち屋より四里半北西より  
よりこれ迄の村は皆無野なる

青山村

一久田村に南西と名古屋に北の方二里半  
をり此村豊場村と一色をり康  
正二年造内裏段錢并國役引付に貳貫五百十  
六文大内五郎殿尾州青山段錢とありたり

豊場村

味鏡原春日井原等に西の方より名古屋  
に二里半あり

船津村

小本の北の方名古屋より三里少あり船  
場はとひ又和名類聚抄小山田郡船木と  
ありともありよきと往古にありまを入河  
とて舟に出入りしが此名は河に船人多くの  
せの山とて帆と巻ける帆巻山といひ  
のり船とて小牧山といひ小牧村の里  
老れしひはくありてまふとてかきし

このもろぬどいふあゝむけごとく一枕勢  
れ高下等とよて考ふれい入江の有りし  
えゆれむむくし一船れつきはりし事あり  
ともつひごとく

田中村

二を堀れ良方名を屋より小東四里を  
うりにゆりて田中店より

勝川村

漸右の小治川れ小乃岸より里とて名を屋の  
二里小東れ方より此村一所と醍醐在より  
もく山城国醍醐寺の寺領法書より  
し醍醐寺雜事記ホよるはるがこま寺の  
店園れ地よりゆりし事あり

野口村

林村れ北東名を屋より目し方四里はり  
よりゆり以下三十餘村より藤本店より

大山村

北に北東に方名古屋より北に方四里  
半あり

大草村

上末下末の東に方名古屋より北東四里  
あり

下原村

大原の南に方名古屋より三里半あり

下原新田村

下原の南に並び名古屋より三里あり

関田村

下原新田に東の方ありて名古屋より  
三里半北東の方あり

牛毛村

関田に東の方名古屋の三里半北東あり

野田村

櫻佐村

牛毛の南よそ名をなより東水の方三里余あり  
野田の西よそ名をなより水東の方三里  
より梅依より名いもく梅麻よ

堀内村

牛毛北東よそ名をなより三里餘長は方あり

名栗村

牛毛北水の方名をなより水東三里餘あり

神鳳抄・尾張國上生栗御厨ナシク生栗御厨ナシク

とつゝいへるなむむいふいふなりと

後ふらぬなりとむいふとほりてななり

ゆび文字も又りなり

下市場村

名栗北西の方名をなより東水の方三里餘あり

より梅華無盡藏に笑隠道人近。往尾山田市

場一庵とつゝいへるなり

神領村

野田の東に方名古屋より北東三里修にあり

下大富村

神領に北東に名古屋より北東三里半にあり

上大富村

下大富の良に方名古屋より北東に方四里を

りたあり

足振村

上大富に北東の方名古屋より北東に方あり

久木村

足振に乾に方名古屋より北東にあり

出川村

久木の西に方名古屋より北東の方四里にあり

大泉寺新田村

出川の西に名古屋に三里半良に方あり

松本村

出川の北の方名を屋より四里東北の方なり  
神明村

杉本れ少よりと名を屋より四里七寅の方  
莊名村

神明れ北の方名を屋より四里解東北なり  
上野村

神明莊名れ西の方内津川の南よりなりと  
名古屋より四里解良の方なり

一色村

上野の北の方名古屋れ東北四里半小なり

和泉村

一色れ純れ方より並ひて名古屋より四里半に  
あり一色とありと合せ呼ひてきに和泉一  
色より六前は小林と合せし例より

白山村

庄名の東北名を屋より四里方四里解あり

高藏寺村

久木に東に方名ち屋より、東北に方四里半  
より

玉野村

高藏寺に東北名吉屋より、西に方五里より

外原村

玉野の北より、名吉屋より、良の方五里、解せ  
板村二所より、木付キツキ榛木ハシノキより、東の方

茨城県にて土政郡三倉村より

神屋村

和泉一色に北の方名ち屋より、東北五里より  
より、内津道村より、つらぬけむし  
日本武尊より、海を渡り、内津道より、  
道を伝ひ、小倣殿と名入り、  
その行殿の伝ひ、神屋と名づけ、  
よひ、日本武尊と祀り、社を創建したるが

今に生<sup>ウツ</sup>ち<sup>ス</sup>村<sup>チ</sup>と稱<sup>ス</sup>と

明知村

内津道神屋の北に並び名を屋より五里に  
つり是れ日本武尊田津と名を移し細  
くゆく磯田に方より移し一がたを夜の  
明<sup>アケ</sup>りぬ<sup>ニ</sup>明<sup>アケ</sup>地<sup>チ</sup>と名づけりといはれり

西尾<sup>サイ</sup>村<sup>ラ</sup>

明知の北に並び一は田津道名を屋より

五里半づり良の方より

内津村

西尾に少くも名を屋より五里半づり  
日本武尊東夷と名づけりて内津を  
とよひけり此をよて休ませ移し供はきこ  
れりける時建稲種命の渡河の海濱に移し  
とてあやまりて船より海小舟入る豊せにひ  
よし使ふ心移しけるとき歌を移し現なり

うもとのやまにひくくさうつこの里とひひと先  
しより一里寛平二年の契田縁起よる  
きねぶとくうさね里よるむつりて北東の方  
美濃の境とて山のつらと可児郡池田と  
しよる池田と内津も街道に旅泊休茶  
屋等つりて常に信濃の方に往來する人  
多くよきやうなる里なり

### 迫間村

神屋の東北方名をなより一五里むり良の方  
より是近の二十餘村いふを藤木をなり

### 福德村

光音寺の北秀田川の向ひ名をなれの正北一里  
むりよりつりてより下三ヶ村と安食庄より

### 中切村

福徳の東よるむび名をなれの北一里むり  
安食三ヶの中切よりよるむびをなり

村名をきく

成願寺村

中切の東北並ひ名を屋より北の方一里餘

よつり

松川戸村

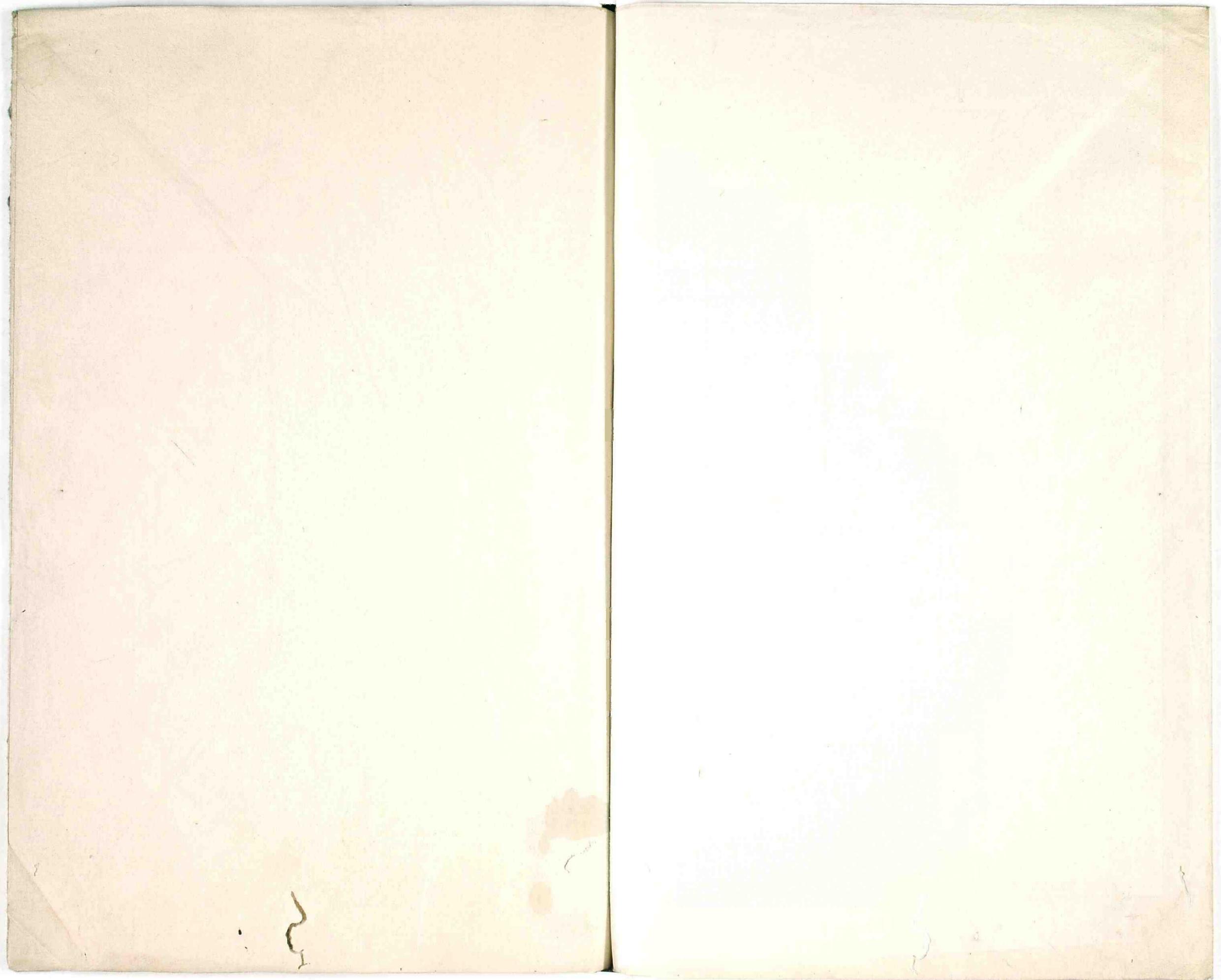
給川の東北方沙泉寺山の西に藤大川に  
西よつりて名を屋より二里餘水戸んがなり  
此村より以下皆柏井庄といふむし柏井の

比廣より一が後世はくとうしのみだけりり  
れ四五ヶ村と云ふなりとい新長村の北東より  
中水野へゆく大道は柏井坂まゝ柏井坂は  
林などいふは地ありて今ハ山田なるなり  
よつり

中切村

松川戸の北にあり名を屋より東北の方二里  
半よりなり





愛知県



1103286158

